

## オハイオ州 フィンドレー大学 奨学生レポート 10月

### 「秋から冬へ」

私がアメリカに来てからもう3ヶ月が過ぎようとしております。ここでの生活は毎日が目まぐるしく、あっという間に過ぎて行きます。ここ、フィンドレーでは、10月31日のハロウインの日に初雪が降りました。もうすっかり冬です。

昨今では日本でもハロウインのイベントを楽しむようになりましたが、ここアメリカも、ハロウイン仕様に装飾された家や、仮装した人を多く見かけました。私も、初めて Jack-o'-lantern 作りに挑戦しました。一緒に作ってくれたアメリカ人は、もう何回も作ったことがあるそうで、手慣れていました。確かに、この時期にアメリカのスーパーに行くと、お店の前には大きなカボチャがたくさん並んでおり、多くの家の前には Jack-o'-lantern が並んでいました。アメリカでは、家でも学校でも Jack-o'-lantern を作るそうで、ハロウインが生活に深く根付いているのだと感じました。



↑ Jack-o'-lantern

8月のレポートにも書きましたが、ここには、いろいろな国の人が学びに来ており、とてもインターナショナルな環境です。そして、この間、インド人と話をしていたとき、とても気になることを言われたので紹介したいと思います。ここ、フィンドレー大学には私の他にも日本人の留学生がいますが、そのほとんどが1年間の留学で、“英語”を学びに来ています。しかし、インドやサウジアラビアの人は、始めは私と同じ英語を学ぶコースにいますが、その後、ここで、学部を卒業するか、修士号または博士号をとって国に帰る人がほとんどです。そして、私はそのインド人に「どうしてここに来ている日本人は英語だけ学んで帰るのか」と聞かれました。私はどうしてなのか答えられませんでした。もちろん、学士号、修士号、博士号等をとるために留学している日本人もたくさんいると思います。また、1年間の留学で得られるものもたくさんあると思います。私は、何が良くて何が悪いと言いたいのではなく、ただ、ここでは、そのインド人の友達がそのような疑問を抱いたということだけを紹介したいと思います。